

寄稿

『「持続可能」へ、決意を新たに』

小田原市長 加藤 憲一

アフガニスタンの辺境の地で、貧困層への献身的な医療活動と、早魃から農村を救う長大な水路建設などに力を尽くし、昨秋凶弾に斃れた故・中村哲氏。最後の著作となった「天、共に在り」に、深い感銘を覚えました。

「現地三十年の体験を通して言えることは、私たちが己の分限を知り、

誠実である限り、天のめぐみと人のまごころは信頼に足るということです」「科学や経済、医学や農業、あらゆる人の営みが、自然と人、人との和解を探る以外、我々が生き延びる道はないであろう。それがまっとうな文明だと信じている」との氏の述懐は誠に重く、深く共感します。

市長の任を仰せつ



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目。「持続可能な地域社会」づくりに奮闘中。

つたこの3期12年は、「持続可能な地域社会」の実現へ懸命に歩んだ日々でした。お陰様で、懸案だった大型整備案件はそれぞれ成就の時を迎え、地域コミュニティや市民活動での協働は大きく進み、自然環境・歴史・なりわい・文化など豊かな地域資源を生かす取り組みも多彩に展開できました。振り返ってつくづく感じるのは、人の力・地域の力を信じ、より良い社会の姿を目指して愚直に誠実に取り組む中で、市民の皆さんの理解と参画、職員の努力と工夫など、実に多くの協力や支えを頂いて来たことへの言い尽くせぬ感謝です。

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力  
(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

(月・水・金 10:00~17:00)

<https://www.katoken.info>

と同時に、気候変動、人口減少・少子高齢化、社会インフラ老朽化、財政難など、社会の構造や状況が現実として大きく変わりゆく中、私たちが（人類）は地域社会（地球）の近未来像を「持続可能であること」へと明確に見定め、「まっとうな文明」の実現に力を合わせて行かねばならないと、決意を新たにしています。